

## 令和5年度 第1回 宝塚市立図書館協議会会議録

日 時：令和5年8月7日(月) 10時00分～12時00分

場 所：中央図書館研修室

出席者：委員 上野委員、今北委員、神崎委員、山崎委員、谷内委員、林委員、藤井委員、  
三浦委員、(欠席：細田委員)

市 永尾中央図書館長、上木西図書館長、近藤中央図書館係長、花村中央図書館係長、  
時任中央図書館職員、西川中央図書館職員

### 【会議内容】

(永尾中央図書館長)

本日は公私ご多忙の時期にも関わりませず、図書館協議会にご出席賜り、厚く御礼申し上げます。  
資料を確認

- ・レジメ、委員名簿
- ・図書館協議会からの意見書
- ・「宝塚市立子どもの読書活動推進計画（第3期）」本編・概要版
- ・西山小学校「本が好き！」ほか
- ・行事関連資料 7点「夏休みは図書館へ行こう！」「キッズ認知症サポーター養成講座」「現代詩講座」「つくる！マチ文庫部」「馬頭琴えんそうかい」「語る！現代文学部」「夏休み特別行事」
- ・「宝塚市立図書館年報 令和5年版（暫定版・抜粋）」
- ・「令和4年度「宝塚市立図書館のご利用に関するアンケート調査」結果」
- ・「宝塚市立図書館利用者満足度調査（令和5年度）」

それではまず、委員交代によります委員の委嘱辞令を私よりお渡しいたします。

なお、任期は2年間で、令和7年6月30日迄です

#### 学校教育の関係者

市立西山小学校長	今北 眞奈美 様
市立長尾中学校長	神崎 佳代 様
県立宝塚西高等学校長	山崎 信一 様

#### 家庭教育の向上に資する活動を行う者

宝塚市PTA協議会	谷内 亜里砂 様
-----------	----------

#### 社会教育の関係者

ボランティア団体「テンプルライブラリー宝塚」会員	細田 史子 様 (欠席)
--------------------------	--------------

#### 学識経験を有する者

広報メディア研究所代表	上野 弘子 様
アリスト外語学院講師	林 希代子 様
元大阪府立中之島図書館・主任専門員	藤井 兼芳 様
公募委員	三浦 葵 様

(永尾中央図書館長)

初めてご参加の方もおられますので、順に自己紹介をお願いします。

#### 委員自己紹介

(永尾中央図書館長)

引き続きまして、事務局職員の紹介をします。

#### 事務局職員自己紹介

(永尾中央図書館長)

事務局から、本日の協議会の委員の出席状況について報告いたします。

(西川中央図書館職員)

協議会規則第4条第2項に規定しています定足数につきましては、9名中8名が出席いただいておりますので、本日の協議会が成立していることをご報告いたします。

(永尾中央図書館長)

次に、本協議会の委員長ですが、協議会規則第3条第1項の規定により、選出は委員の互選により定めることとなっています。委員長の選出について、ご推薦等ご意見はございますか。

よろしければ事務局より、上野委員を委員長に推薦させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(全員の承認)

(永尾中央図書館長)

それでは、委員長は上野委員にお願いしたいと思います。

次に、議長についてですが、協議会規則第4条第1項の規定により、委員長が議長になることとしておりますので、上野委員長にお願いいたします。

(上野委員長)

委員長及び議長を拝命いたしました上野でございます。よろしく申し上げます。若輩者ですが、たくさんの意見が交換できる協議会にしていきたいと思っております。皆さまのご協力をお願いします。

それでは、傍聴の方はおられますか。

(傍聴者なし)

傍聴の方はおられないということで、議事に入りたいと思っております。

「議事(1) 令和4年度事業報告」について、事務局から説明をお願いします。

(永尾中央図書館長)

それでは、資料1-1をご覧ください。これは、年報の速報版となります。校正前の資料ですが、こちらで説明します。沿革について、主なものを載せています。昭和55年10月に中央図書館が開館し、2025年で開館45年となります。そして、西図書館は、平成6年、1994年に開館し、2024年が節目の30年となります。平成22年に行財政改革推進委員会から、西図書館について、「指定管理者制度を導入すべき」との提言が出され、図書館では直営を守るため、市民サービスをさらに向上させるべく様々な取組を行ってきました。図書館協議会では、活発な議論の末、「指定管理者制度は導入すべきではない」との趣旨の意見書をまとめていただきました。令和3年には、令和元年5月の宝塚市立図書館協議会からの意見書、令和2年7月の社会教育委員の会議からの意見書、令和3年3月の教育委員会協議会の協議を踏まえ、当面の間、宝塚市立図書館への指定管理者制度導入を行わないことを教育長決裁にて決定しました。このように図書館協議会では、図書館のためになるような意見をまとめていただくこともあります。次に令和4年度について説明いたします。

(上木西図書館長)

西図書館については、築28年が経過し老朽化が著しくなっていた空調設備、受変電設備、屋上防水設備の改修工事に伴い、令和3年12月1日から令和4年5月31日までの6か月間休館しました。休館中のサービスとしまして、移動図書館の巡回、図書館西側の市立小林フラワーガーデンにある管理事務所で予約図書の貸出、返却を行いました。また、近隣にある市立くらんど人権文化センターに西図書館所蔵の図書約4,000冊を持ち込み、貸出などのサービスを行いました。また、休館中の子ども向けの行事については、市立くらんど人権文化センターの和室をお借りして実施しました。工事竣工後6月2日に図書館が再オープンしました。6月4日(土)には、西公民館との共催によるイベントを実施して、リサイクル図書の配布会などを行い、たくさんの方が来られました。

続いて、「図書館利用券とマイナンバーカードとの連携開始」をご覧ください。新たな取組として、図書館の利用券とマイナンバーカードの連携を令和4年10月から実施しました。一度手続きをすれば、図書館利用券を持参しなくてもマイナンバーカードだけで図書の貸出を行うことができるものです。また、阪神7市1町では、相互利用を行っており、各市町がワンカード化に取り組むことで、複数の利用券を持つことがなく、利便性が向上するものです。参考として、図書館利用券とマイナンバーカードの連携を実施している阪神間の市は、西宮市、芦屋市、三田市、宝塚市です。

(永尾中央図書館長)

令和4年12月1日から、神戸市立図書館との相互利用を開始しました。阪神間の相互利用は平成3年から実施していますが、神戸市も参加したいとの提案があり、検討の結果、神戸市立図書館との相互利用を開始し、神戸市民の方も宝塚市の図書館を利用できるようになりました。次に、令和5年1月23日から、サーバーがある中央図書館の受変電設備の機器更新による停電のため、全館休館しました。

(上木西図書館長)

下に表のある「意見書提出に至る経緯」という資料をご覧ください。令和5年12月6日に開催された図書館協議会において、市内の各図書館を視察しました。視察及びその後の協議の中で、山本南分室は貸出冊数が非常に多いにも関わらず、他の分室と比べて面積が極端に狭いという意見が各委員から多数出されました。図書館協議会として、「市民のために早急に東公民館の所管課と協議を行い、山本南分室の拡張、環境整備を図ることを意見いたします。」との意見書を令和5年3月3日付けで提出されました。意見書の内容、詳細等につきましては、資料のとおりです。意見書を踏まえ、市立図書館としましても面積拡大に向けて担当課と協議を重ね、今後、整備に係る必要な予算等について要求を行っていきたいと考えています。

(永尾中央図書館長)

この件につきましては、教育委員会協議会でも報告しています。現在、来年度の予算獲得に向けて、準備しています。今の場所をもう少し広げる工事の予算を要求しているところです。

続きまして、資料1-2をご覧ください。

(近藤中央図書館係長)

令和4年4月から令和5年3月までの1年間の統計資料です。当市の図書館の蔵書数は、694,848冊となり、ここ数年は約68万冊程度ですが、若干増えています。西図書館が空調外工事による休館で、廃棄作業が遅れたことの影響もあります。全館の合計で、一般書、大人向けの本が約69%、児童書が27%、それ以外が数%となっています。この68万冊という数字ですが、令和3年度の人口20万人から30万人の市46市の平均が80万冊ですので、若干、少なくなっている状況です。

次の資料1-3をご覧ください。利用券の登録です。当市の図書館では、過去3年間に貸出のあった登録者数を実登録者数としており、46,262人で、人口の19.1%になります。令和3年度は20.3%でした。コロナ前の方が高い数値になっています。コロナによる臨時休館があり、来館されない方もいて登録者数が減少していると捉えています。1年間に貸出のあった数は、31,550人です。

次の、「イ 年代別利用者数」をご覧ください。過去1年間に貸出のあった利用者を年代別に記載しています。最多は5,540人の40代で、昨年度と同じです。なお、幼児、小学生、中学生は全体の18.5%となります。60代以上の登録者は30.7%です。これも昨年度とほぼ同じです。子どもの利用については、保護者が借りられる場合もあるので、実際はもっと借りられています、その数を把握するのは困難です。次の「ウ 市外内訳」ですが、訂正がございませぬ。猪名川町までは阪神広域利用とありますが、神戸市は年度途中で在住、在勤関係なく、神戸市民が利用できるように変更になりました。

次の、「(3) 阪神広域利用における貸出登録者数」ですが、宝塚市民が宝塚市以外の図書館で借りた数が7,318人で、昨年度は7,562人でありほぼ横ばいです。宝塚市が突出して多い状況です。

この理由としては、阪急今津線沿線では西宮北口の図書館を、山本地区から安倉地区の方は伊丹市の図書館を、山本から雲雀丘の方が川西市の図書館を利用されるということが考えられますので、宝塚市民は、西宮市立、伊丹市立、川西市立図書館の利用が多くなっています。

次に、資料1-4の「6(1)個人貸出」ですが、各館の種別ごとの利用を記しています。このうち「WEB」ですが、インターネット上からの貸出延長の数を記しています。

次に、「イ 有料郵送貸出」ですが、利用者に往復の送料を負担していただき、図書館から自宅に有料郵送するものです。「ウ 育児介護による無料郵送貸出」ですが、0歳から1歳までの子どもの育児や家族の介護のために図書館への来館が困難な方に対して、無料で本を郵送するサービスです。

次に、1-5の資料をご覧ください。過去5年間の「年度別貸出冊数」「年度別貸出人数」「一日平均貸出冊数」を記載しています。令和4年度の貸出数は、1,898,410冊で、令和3年度の1,936,571冊よりも約3万8千冊減少していますが、原因は、西図書館の空調工事による休館、1月23日から26日の間、中央図書館の受変電設備工事による停電でコンピュータが停止したため市内全館休館したことによる約2万冊の減少分を含んでいますので、それを考慮しますと、令和3年度とそれほど変わっていないと思われます。利用動向を知るうえで過去からどれくらい利用が変わっているかを探りたいのですが、ここ数年、コロナの影響による臨時休館や工事による休館で比較が難しいところです。「キ 一日平均貸出冊数」をご覧ください。令和3年度と比べると減少しています。これも休館の影響です。中山台分室が505冊から448冊に減少していますが、中山台分室は、中山台コミュニティーセンターの2階にあり、11月1か月間エレベーターが工事で利用できなくなり、また、駐車場の工事も行っていたため減少に繋がったと思われます。

「(2) 団体貸出」ですが、小・中・高等学校、地域児童育成会など色んな団体に貸出している数字です。

次に、資料1-6をご覧ください。来館者数を令和3年12月からカウントしています。閲覧室・自習室の利用や、調査相談室、聖光文庫などがある中央図書館は、貸出利用以外の方の来館が多いと考えられます。

次に、「8 予約」をご覧ください。予約の方法別では、パソコン、スマートフォン、携帯電話で全体の85.9%を占めています。

次に、「(2) 予約件数の推移」では、年々、予約件数は増加しています。「9 レファレンス」は調査相談を受けた件数です。「10 相互協力」ですが、本のリクエストをいただくと、主に、県立、阪神7市1町の図書館から無料で取り寄せができますので、その件数を示しています。

次に、資料1-7は行事の件数ですが、前回の図書館協議会でも説明しましたので、割愛します。

次に、資料1-8「※中央図書館内での開催行事(市史資料室主催行事と図書館が主催ではない行事)」をご覧ください。市史資料室の行事と御殿山児童館の出前児童館、社会教育課のイベントなどの行事を中央図書館の集会室などで実施しています。一番下の小浜・安倉分室ですが、令和2年12月にオープンし、初めて大きなイベントをしました。

(上木西図書館長)

27頁の資料1-9をご覧ください。表の中程に、「小学生～高校生向け講演会「夢か現か妖怪か。～本は不思議への扉」とございます。宝塚市では、平成30年9月に「宝塚市子どもの読書活動推進計画」を作成しました。この計画の関連事業として、令和5年1月15日に市立西公民館ホールで、小学生から高校生向けを対象に、児童文学作家の富安陽子先生を講師にお迎えした講演会を実施しました。富安先生は、「オニのサラリーマン」シリーズをはじめ、子どもたちに人気のある本をたくさん執筆されている作家で、当日は大人の参加者も含め、114人の参加がありました。先生ご自身による絵本の読み聞かせの時間もあって、好評を博しました。

次に、「ぬいぐるみのおとまり会」をご覧ください。この行事は、アメリカでの取組を参考に2010

年から開始し、令和4年度で15回目となります。西図書館の恒例行事で毎年子どもたちが楽しみにしているものです。令和4年12月10日に実施し、48人の参加がありました。次に、表の上の方にある大人向け行事になりますが、「子育て応援！図書館利用のための託児サービス」をご覧ください。この事業は、幼い子どもを育てている利用者の方が気軽に安心してゆっくり本を選んだり、楽しんだりできるようにするもので、満1歳から就学前の子どもとその保護者を対象に、月2回、10時から11時、11時から12時までの間で実施しているものです。

(近藤中央図書館係長)

次に、資料1-10「※館外イベント」について、説明します。「鳥獣戯画絵巻の出張展示」は、10月から12月にかけて、聖光文庫が所蔵する鳥獣戯画絵巻の複製を小学校に出張展示しています。実際の絵巻の形に複製されたものですが、実際に資料に触れてもらい図書館のPRを行っています。10年間ほど前から始め、小学校23校中、例年5~7校出張しています。小学校6年生の鳥獣戯画を学ぶ授業の一環として絵巻を児童に見せたいとの依頼があり、実施しているものです。1巻あたり12~13mあり、長机を使って絵巻全体を展示します。子どもたちはすごく喜んでいきます。

次に、資料1-11「(2) 聖光文庫の展示」をご覧ください。

聖光文庫は、清荒神の鉄斎美術館から寄贈を受けた美術資料と、複製の絵巻や絵画を所蔵している部屋で、展示コーナーでの展示一覧となります。市史資料室の資料も展示しています。夏休み期間中は、鳥獣戯画の展示を行っています。

(西川中央図書館職員)

次に、資料1-12「22 決算額」について、先に中央図書館から説明します。表中、「空調機器(GHP)更新工事」を「受変電設備更新工事」に訂正をお願いします。「7 報償費」ですが、イベントや集会行事、「レコードコンサート」や「好奇心クラブ」、「市民のための現代文学講座」などの講師謝礼の費用です。次に、「10 需用費」の「消耗品費」ですが、新聞、消耗品図書、年度版図書などが含まれています。また、光熱水費ですが、ウクライナ侵攻から高騰し、予算を圧迫しています。施設修繕料318万円ですが、中央図書館の建物が44年を経過して、色んなところが傷んでおり毎年支出しています。

次に、「12 委託料」ですが、「施設管理等委託料」として、エレベーターの点検など建物の維持に係る支出が大きなものを占めています。「図書運搬業務委託料」は、中央、西、各分室間で、毎日、本を移動させています。本の物流は図書館の根幹に当たる部分ですので、費用を圧縮できない部分です。

次に、「13 使用料及び賃借料」の中の「図書館システム借上料」も図書館の根幹になるもので、長期の契約をしており、圧縮できないものです。

次に、「14 工事費」ですが、市の施設マネジメント課という、各施設の工事の予算を管理している部署で査定を受けた額です。また、枠予算は、図書館の裁量で枠の中の移動は可能なもので、殆どが定額的な金額で、消耗品費や施設修繕料、手数料などで工夫しています。

次に、歳入確保ですが、自動販売機を置き、毎年55万円の収入があります。広場の改修などに充てていますが、今後は広場での行事も含めて実施していきたいと考えています。

(上木西図書館長)

先に、写真付きの資料「西図書館 児童コーナー壁面」について、説明いたします。西図書館の入口から左手に児童コーナーがあります。奥にある「おはなしのへや」の手前の壁面を一新して、絵本の展示用のアクリル製の棚を設置し絵本の表紙が見えるように並べ、保護者や子どもたちが手に取って読みたくなるような形で展示しています。

次に、西図書館の決算額について説明します。「7 報償費」については、先ほども説明した富安陽子先生の講演会の費用などを含め、約26万円支出しました。

次に、「10 需用費」の「消耗品費」ですが、新聞、雑誌、追録、年鑑、白書などの購入に約235

万円、その他の消耗品を合わせて約530万円です。「光熱水費」ですが、中央図書館からの説明のとおり、光熱水費が上昇しています。平成31年度から、関西電力の契約ではなく、いわゆる新電力の電力供給会社と契約し節減を図っていたのですが、それ以上に光熱水費の高騰があり、年間の予定額を超えることとなり補正予算で対応しました。

「14 共益費」ですが、約890万円と大きな額になりますが、中央図書館で言えば委託料に当たるものです。清掃や警備など施設管理などの費用で、隣の西公民館が平成31年度から、直営から指定管理となり、民間のアクティオ㈱が施設全体の管理をしており、西図書館分を共益費として支出しています。

次に、「14 工事費」ですが、空調設備外改修工事に係る費用で、令和3年12月から令和4年5月末までの2か年に亘る工事で、令和4年度分が約4千8百万円になります。最後に、図書購入費ですが、毎年、約1千3百万円の予算で新しい本を購入しています。総額では、約8千5百万円の決算額となります。

(永尾中央図書館長)

次に、資料2-1、2-2をご覧ください。

(花村中央図書館係長)

アンケートを2種類実施しました。一つが「宝塚市立図書館のご利用に関するアンケート調査」で、郵送による配布数2,000枚、有効回答数463でした。結果につきましては、以前の協議会でも、速報という形で報告しました。どのような方が図書館を使われて、どのような方が何の理由で図書館を使われていないかの統計をとりました。6頁に、問3と問9のクロス集計を載せています。「図書館が近くにあるが利用した、利用しなかった」という集計を棒グラフで表しています。中山台分室、山本南分室が近くにあるが、利用しなかったという方が多いのですが、利用圏がかなり広いことが理由の一つと考えられます。山本地区に関しては、川西市の図書館の利用も多いかなと思います。自由記述欄には、過去3年間に図書館を利用しなかった方の意見を載せていますが、「図書館がもっと近くにあればいい」、「高齢になって行けなくなった」などの意見がありました。13頁に問10「図書館を利用しなかった理由は何ですか」がありますが、「その他」の回答の中に、「他市の図書館を利用している」や「コロナ禍のために行かなかった」という回答もありました。

次に、資料2-2「宝塚市立図書館利用者満足度調査」をご覧ください。西図書館の休館のため、前回調査の平成30年から5年を少し超えての実施となりました。カウンターでアンケートの用紙を配布・回収しました。配布は2週間行い、5月31日までに回収したものを集計しました。館ごとの総合評価については、全体的に上昇していますが、西図書館は、若干下がっています。平成30年度の調査と比べると、どの館も「満足」が上がって、「やや満足」が下がっています。分析も含め、次回の協議会で報告します。

(上野委員長)

丁寧な説明ありがとうございました。事務局から説明いただいた内容について、ご質問等ございましたら、どなたからでも結構ですのでお願いします。

(藤井委員)

相互協力の説明で、阪神間の市町村間は無料ということでしたが、これは負担金を支払っているのですか。

(西川中央図書館職員)

阪神7市1町で図書館協議会を設置し、人口規模等に応じ負担金を支払っています。その費用を使って、図書運搬業務として阪神間でメールカーを走らせる契約をしています。

(藤井委員)

それは資料の「委託料」の中の「図書運搬業務委託料」の中ですか。

(西川中央図書館職員)

その運搬業務は、宝塚市内の図書館、分室を回るもので、阪神間のものは「18 負担金」になります。

(上木西図書館長)

34頁の中央図書館の「18 負担金補助及び交付金」の「日本図書館協会等負担金」の中に阪神間分も含まれています。

(藤井委員)

ということは、十分ペイしているということですね。回転冊数が多いということは。

(西川中央図書館職員)

詳しい分析はしていませんが、人口規模による金額差があって、結果的には金額に応じたものとなっているかと思います。

(林委員)

17頁の「ウ 無料郵送貸出」ですが、返却はどのようにされていますか。

(近藤中央図書館係長)

返却も着払いで無料となります。また、サービスセンターなど、お近くの返却ポイントに返していただくこともできます。利用者の費用負担は全くありません。

(三浦委員)

図書館の予算の件ですが、例えば、アンケートで市民の満足度が上昇する、来館者数が増える結果になれば、枠予算は増やせるものですか。それと、図書の購入費用は軸になるかと思いますが、副本を減らすなどのお考えはありますか。

(西川中央図書館職員)

満足度や来館者数の増加と枠予算は直結しません。但し、実施計画や枠以外の予算を要求するときに市民の満足度や来館者数の増加が評価を受けて、予算がつけやすくなるということは結果的にあるかと思いますが、現状ではなかなか難しい状況です。

(永尾中央図書館長)

副本の件ですが、館ごとに、人気のある本は副本を置いています。利用者からは、予約の順番がなかなか来ないのでもっと本を買ってほしいと要望されますが、上限を決めて購入しています。予約を回すためには、極端に副本を減らすことはできません。

(上木西図書館長)

予算関係で少し補足します。中央図書館からも説明がありましたが、予算の仕組みについて、通常経費は枠予算ということで例年、同等の額が財政課から査定されます。満足度が上がれば予算が増えるのかという質問ですが、図書館で新しい事業については、財政課では別の組み立てをしており、「新規・拡充」や「実施計画」などを計画的に要求して財政や企画部門からの査定を受けると新しい事業や拡充したい事業ができるようになり、その中で、利用者の満足度が高いということであれば、図書館側から主張していく契機となります。また、工事関係は、市の施設マネジメント課の枠組みの中で工事費は査定されます。

(永尾中央図書館館長)

補足ですが、先ほどの山本南分室の拡張は、「新規・拡充事業」として要求しているところです。0 査定となる可能性もありますが、頑張って主張していきます。

(藤井委員)

「利用に関するアンケート調査」ですが、別枠で予算を取って実施されたと思いますが、ホームページで公開もされているかとは思いますが、議会の委員会などには報告されていますか。

(永尾中央図書館長)

教育委員会には報告していますが、議員への報告などは今のところできていません。

(藤井委員)

議会へ報告はしないということですか。

(上木西図書館長)

特別な形で議会への報告はしていませんが、通常の一般質問や代表質問で、市民の満足度はどうかという質問があれば、その答弁の中で説明しています。アンケートだけの報告はしていません。

(藤井委員)

図書館に来ている利用者のアンケートとは違い、無作為で抽出した市民アンケートなので、アピールされた方がいいと思います。堺市の中央図書館建替えの件でも無作為でのアンケートを実施して、プランを立てていくためにどんどんアピールしています。今回の宝塚市のアンケートも無作為での市民アンケートなので、教育委員会だけではなく、アピールした方がいいと思います。アンケートには、山本南のことも書いてあるし、回収数は少ないが、クロス集計を見ると、「近くに山本南分室があるが利用しなかったが50人、利用したが25人」という結果になっており、魅力というか、なぜ利用しないのかということかと思えます。こういう結果が出たということは、開館時間の延長や、設備を良くすれば効果があるかもしれない。統計を活かしてロビー活動をしてほしいと思います。

(上野委員長)

貴重なご意見ありがとうございました。折角苦勞して実施したアンケートですから、藤井委員が言われたように、活用の検討もお願いします。

私からも二つ質問したい。西図書館の小学生から高校生向けの講演会ですが、参加総数が114人で、活況で大成功だったかと思えます。ターゲットが小学生から高校生と設定されているのに、参加者を見ると、子どもが27人、大人が87人となっています。これはどのように分析されていますか。

(上木西図書館長)

子ども向け講演会と言いながら、大人の方の参加が多くて、少し残念な部分もありました。

当日、大人の参加者が多いということで、大人向けに寄った内容となったところもあったのですが、今後は、より子どもも楽しめるような内容にしていきたいと思えます。令和5年度で4回目となり、先日、講師と日程が決まり、12月10日に、場所は東公民館で、児童文学作家の斎藤洋さんをお迎えして開催する予定で交渉しています。今後、内容の協議をしますが、例えば、2部制にして、午前中は低学年向け、午後は高学年向けといった子ども向けの内容にしたいと思っていますので、より子どもが参加しやすい内容にしていきたいと考えています。

(上野委員長)

私を感じましたのは決して残念な結果ということではなく、逆に、大人が楽しめる講演会をいかに切望しているかが、このデータに表れていると思えますので、子ども向けだけでなく、大人向けも開催していただければと思います。喜ばれる方がたくさんおられるのではないかと思います。また、この「夢か現か妖怪か。」というタイトルも、子どもよりも大人の気持ちをそそるものではなかったのかと感じました。

(上木西図書館長)

タイトルは、先生からの提案で、タイトルに沿った講演でしたが、当日は、先生の読み聞かせもあって、涙あり、笑いありの本当に感動的な内容でした。講演終了後に、子どもたちからたくさん質問があって、先生も質問に対して丁寧に答えられて、それも良かったかと思っています。今のご意見は今後の参考にします。大人向け講演会については、今まで中央図書館で実施されていましたが、今は中断されています。

(上野委員長)

もう一点お聞きしたかったのが、アンケートの利用者満足度調査で、移動図書館の回収率が27.9%



とあって、他が50%から60%なのに対して非常に低いのですが、何か理由があるのでしょうか。

(永尾中央図書館長)

移動図書館につきましては、2週間に1回巡回していきまして、その場で書けないので、持って帰っていただいて、次に来られれば回収できるのですが、「書いたけれど持ってくるのを忘れた」などもあって、窓口があるところと比べると回収が難しい状況です。

(上野委員長)

分かりました。納得しました。

他の方はいかがでしょうか。どんなことでもけっこうです。無いようですので、次の議題に移ります。

それでは、「議事(2) 令和5年度事業について」事務局から説明をお願いします。

(西川中央図書館職員)

3つのポイントについて説明します。一つは館内の照明設備です。照明設備を9月30日までに全てLED化します。今回、10年間のリース契約でLED化することについて、施設マネジメント課の承認を得て枠予算の外で実現します。9月30日までに工事を終了して、リース期間は翌日の10月1日から令和15年9月30日までとなります。リース料の総額は、ベガ・ホールも含めて約1千3百万円で、図書館分は約780万円で1年あたり約80万円となり、年間の負担を少なくして実現できます。リース契約のため期間中に機械が壊れたときには業者の負担で交換してもらえます。次に、雨漏り調査ですが、建物の老朽化のため原因不明の雨漏りに悩まされています。今回の調査は、建物に特殊な水を当て、光線に反応することで雨漏りの箇所を特定するもので、調査費の総額が321万6千円、図書館分は292万4千円です。この調査で原因が特定できれば、翌年度以降に修繕の費用を予算化して修繕し、雨漏りの解消を図ります。最後に空調工事ですが、中央図書館の空調はガスヒーポン、GHPによる各室暖房と、直焚き吸収式システムによる開架室の空調です。水を熱することによって冷暖房を行う直焚き吸収式システムが約20年経過して老朽化しており、令和5年度から7年度の3年間をかけて更新します。契約予定が令和6年2月で、工事により冷暖房が使用できない期間が令和7年1月から4月末までの4か月間です。但し、GHP方式の各室暖房は使用できるため、休館の期間については今後検討します。予算総額はベガホール分と合わせて1億4千993万円、図書館分が7千2百96万5千円で50%ずつとなります。令和5年度分は、手付金として全体の4%の約300万円を予算措置しています。

(近藤中央図書館係長)

次に、資料4「図書館システム更新について」を説明します。現在使用している図書館システムは、令和6年3月で契約期間が終了しますので、図書館システムの更新を行います。パソコンも更新しますが、重要なところは、パッケージシステムである図書館システムの更新です。そのため、公募型プロポーザル方式を採用し、複数の事業者から提案を受けて作業を行い、9月には、事業者を決定します。新しいシステムの移行作業に伴い、全ての機器を入れ替えますので、令和6年3月18日から4月3日迄の約2週間の休館を予定しています。次のシステムでの新たな図書館サービスですが、LINEと連携して、スマートフォンの画面上に利用券のバーコードを表示しての貸出や、LINEからの資料検索などを考えています。図書館ホームページも更新します。

(永尾中央図書館長)

次に、図書館行事について説明します。資料6-1が中央図書館の夏休み行事です。「キッズ認知症サポーター養成講座」は、「認知症にやさしい図書館」を目指し、小学生を対象にした認知症を知ろう、という講座です。「現代詩講座 詩を読んでみよう、書いてみよう」は、宝塚詩の会、兵庫県現代詩協会の主催で初めて行う、詩を読むことと作ることの講座です。次に、「つくる!マチ文庫部」ですが、宝塚市に関する本を市民自らが作って図書館に所蔵するプロジェクトのイベントで、4回シリーズで本作りをサポートします。次に、「馬頭琴えんそうかい」は、スーホの白い馬で有名な馬頭琴の演奏と、モンゴル

の文化に触れてみるという、小学生以上を対象とした行事です。「語る！現代文学部」は、昨年度まで行っていた「現代文学講座」に代わって読書会の形で行うものです。1、2回目は藤本先生と職員によるブックトークを中心とした内容、3回目で読書会を予定しています。

(上木西図書館長)

資料6-7をご覧ください。「夏は図書館で体験しよう！」ということで、夏休み特別行事です。「夏休みスタンプラリー！」は、西図書館の行事に参加してスタンプを集め、お手製の缶バッジや図書館バッグなどをプレゼントするものです。「夏休み 本見つけ隊」は、利用者が予約した本を子どもたちに書庫から探してもらうという行事を昨日から行っています。さらに、「てづくりの時間」のほか、「夏休みこども上映会」を4回行います。

次に、「宝塚市子どもの読書活動推進計画」についてですが、子どもたちの読書活動を推進するために、平成20年度に第1期計画を作成しました。25年度に第2期計画、30年度に第3期計画を策定して、様々な施策を実施してきました。現在、図書館及び関係課で組織する策定委員会を設置して第4期計画の策定に向けて協議を重ねているところです。案ができましたら、皆さんにお示ししてご意見をいただきたいと考えております。また、現行の3期計画もご一読をお願いします。

(上野委員長)

今の事務局の説明について、ご質問、ご意見があればどうぞ。ご質問等が無いようですので、次の議事、「(3)意見交換等」に進めていきたいと思えます。

(藤井委員)

プロポーザルは、4日に参加締切りとホームページにありましたが、応募はありましたか。

(近藤中央図書館係長)

複数の事業者から応募がありました。

(上野委員長)

では、意見交換をしたいと思えます。この会議では、委員の方お一人必ず一回はご意見を発言いただきたいと思えます。資料もいただきましたので、今北委員をお願いします。

(今北委員)

実は、8月3日に、宝塚市の図書館担当の教職員に集まってもらい、この研修室で研修会を開催しました。前半は、小学生の見学ルートと同じルートで中央図書館を案内いただき、その後、「宝塚市子どもの読書活動推進計画(第3期)」の内容について、永尾館長から説明いただきました。こういう見学であれば、子どもたちにも大変分かりやすく説明いただけるであろうということで、中央図書館への見学も増えて、子どもたちの利用も増えればなという思いです。お手元に、「たからづか学校応援団ボランティア登録申込書」の配布をさせていただきましたが、これで図書館ボランティアの募集もしています。西山小学校では、今年度60名の応募があり、学校図書館の貸出業務やポスターの作成、7月号を配布していますが、「本が好き！」という学校ボランティア通信を発行しています。各小中学校では、ボランティアが活躍されていて、学校図書館担当の校長としましては、子どもたちが、もっと図書館を活用してほしいし、身近にある学校図書館でたくさんの本を読んでほしいと思っています。11月25日に、「ことばの祭典・ビブリオバトル」が開催されるという連絡もいただきましたので、学校でも、ビブリオバトルを開催して、子どもたちが本に親しむ機会を作っていきたいと思っています。

(藤井委員)

60名というのはすごいですね。学校司書は全校配置ですか。

(今北委員)

全校配置です。

(藤井委員)

国からのお金は出ていますか。

(今北委員)

詳しいことは分かりませんが、市の(会計年度任用)職員で、西山小学校では、週に4日勤務しています。

(藤井委員)

学校司書の配置や図書の更新について、国の学校図書館標準があります。新聞代に対しても対象となっています。複数紙配備されていますか。

(今北委員)

一般紙の購読はしていません。学校図書館でこども新聞を購読しています。

(山崎委員)

初めて参加させていただき、雰囲気分かりました。先ほどのアンケートの中の自由記述で、お手洗いの件がありました。先ほど自分も利用しましたが、洋式が少ないなと思いました。私は、猪名川町に住んでいて、猪名川町の図書館をよく利用しますが、公園があるので、駐車スペースがあり、車に乗ってきて利用される方が多い。駐車スペースも自由記述にありました。すぐには難しいかもしれませんが、お手洗いの改善ができればと思いました。高校で図書館の利用となると、勉強や受験勉強のための利用となり、純粹に本を読みに来るといった生徒は少ない状況です。活字離れと言われますが、スマートフォンで色んなニュースなどを読んだりしていますので、実際は、活字離れではないと思いますが、出版された本を読むということが無くなってきつつあるということで、夏休みの読書感想文の宿題を出していますが、AIで感想分が書けるといようなことで、今まで、盗用については注意できたのですが、AIで作成したものは見分けられないのではと国語の教員が心配しています。

(神崎委員)

学校司書については、市でスキルアップの講座や研修会などを開催していただいています。先ほど今北校長が言われたように、お話を伺ったり、図書館から来ていただいたりなど協力していただければなと思いました。学校司書には意識の高い方もいて、自主研修をかなりされていることも聞きます。また、ビブリオバトルですが、中学校では、図書の時間がなかなか確保できていなくて、その関係もあって、参加者が少ないこともあります。教科とタイアップして、お知らせを配るだけではなく、参加に結びつくようなことをしていきたいと思います。

(谷内委員)

3年生と1年生の子どもがいます。学校の図書室にはよく行っていますが、なかなか図書館に行く機会がなくて、今日参加させていただいて、図書館ってすごくいいなと改めて思いました。PTA会長として、少しでも図書館の良さを広めたいと思いました。

(上野委員長)

何よりのバックアップだと思います。

図書館が近くにあっても、行かない方がいるということはアンケートにもありましたが、私は、旅先で図書館を見学することを今年から始めました。沖縄県立図書館にも行きました。鳥取県の智頭図書館、仙台市図書館、東京の国際子ども図書館も行きました。それぞれの図書館が時代の流れに対応して、色んな取組、例えば、鳥取県の智頭は、少子高齢化で過疎ですが、宿場町として歴史上有名な町です。高齢化が進んでいて、移住者に対して助成金を出していますが、その一環として、とても立派な図書館を作っています。平屋で木の香りが漂うような素朴な感じで、とても温かみがある図書館です。町役場は古い庁舎なのですが、このまちで子育てをしてほしいという役場の意気込みを感じられるような図書館でした。これからも色んなまちを訪問するたびに図書館を見ていきたいと思っています。皆さんも地方へ行く機会がありましたら、是非図書館を見学していただいて、この場で意見交換ができればと思います。

それでは、次回開催について、事務局からお願いします。

(永尾中央図書館長)

通常、第1回が今回のように7から8月、第2回が10月から11月に、第3回が2月から3月の初めに開催しています。昨年度、第2回は宝塚市立西図書館及び山本南分室、小浜・安倉分室を視察していただきました。今年度も第2回は視察を予定していますが、ご意見、ご希望はありますでしょうか。昨年、視察できなかった中央図書館、中山台分室、また、旧松本邸の視察を行うか、或いは、市外の先進的などころや新しく建った図書館へ行くかという案がありますが、いかがでしょうか。

(藤井委員)

西谷はどうですか。

(永尾中央図書館長)

西谷は、西谷ふれ愛ライブラリーという、リサイクル図書などを置いているところです。非常に遠くて往復1時間以上かかりますので、そこにしか行けなくなり、難しいと思います。

(上野委員長)

昨年行けなかった市内の図書館に行くのいいのではないのでしょうか。来年度は、市外へ行くことで、まずは市内の図書館の視察がいいのではないかと思います。

(永尾中央図書館長)

それでは、調整して日程のご連絡をします。

(上野委員長)

他に事務局からあればどうぞ。

(永尾中央図書館長)

先ほどもありました「宝塚市立子どもの読書活動推進計画（第4期）」を策定しています。案が完成したところで、皆さまに送らせていただきます。ご意見をお願いします。

(上野委員長)

本日はこれで閉会します。長時間お疲れさまでした。

以上